

～ここに笑顔の種がふる～

はあとふる

2020 Vol.60

地域の皆さまに、
Warm Heart(心)
Cool Head(知識・判断)
Beautiful Hands(技術)で
ヘルスケアサービスを提供するための
コミュニケーション誌



〈ご寄付の御礼〉

新型コロナウイルス感染症対策
における当グループへの活動に
ご支援・ご協力いただき
ありがとうございます。



Physical Distance with Your Hearts Getting Closer

やさしい想いをいっぱい込めて、みんなでフィジカルディスタンス

〔特集〕つなぐ。みすえる。

〈互いの心をつなぐ〉

●2020 東京オリンピック延期、
コーチと選手はその危機をどう乗り越えたのか？

〔巻頭対談〕

アーティスティックスイミング

日本代表チームヘッドコーチ 井村 雅代氏



医療法人はあとふる

理事長 島田 永和

〈治療とケアをつなぎ、むすぶ〉

●点を線に、線を面に。
切れ目のない退院支援体制を
築くために。

撮影協力：公認心理師 渡辺さんとその family



●五輪延期でチームに起きたこと

井村 3月初めから、4月にハンガリーとロシアで行われるワールドシリーズに向けた合宿に入っていました。その最終調整の3月中旬、まずワールドシリーズが延期に。自粛ムードが高まる中、合宿を終えたその日から選手との面談を始めました。ここでいったんチームを離れて各自でトレーニングするか？そのままチームで練習を続けるか？オリンピック延期が決まったのは、面談を始めて2日後の24日でした。

島田 選手は動揺するよなあ。

井村 アスリートの体は繊細です。目標と集中力を失うとパフォーマンスは落ちる。その時点で選手にしてあげられることは、事実を伝えることだけ。「ASとオリンピックに関する情報は、一番先に私のところに入る。しかもその情報が一番正しい。それを伝えてあげるから」と。

島田 選手はどっちを選んだ？

井村 全員「帰らずに、チームと一緒にいたい」でした。しかも話を聞いていると、団体演技なら「私はスピニングが倒れそうだった」とか、デュエットなら「後半のバラバラ感を修正してから競技に出たいと思っていた」と、今の仕上がりに対する本音が溢



れてきた。じゃあ時間ができたのだからそれをやろうよ、と。今こそ演技を楽しもう、新しいリフトも考えよう、全部つくつかえよう。それができれば、4月にいくはずだったワールドシリーズの演技よりグレードは上がるはず、と。長いコーチ歴のなかでも、今回ほど選手と話し合ったことないですよ（笑）。苦しい時にはそばにいてあげること、顔を見て目を見て話すこと。苦しい時にこそ優しくなること。あらためてその大切さを学びましたね。

島田 それさ、普通の人なら「どうしよー」ってなるやん、何日か何時間か知らんけど。すぐに切り替えられるのがすごい。

井村 今、起こっている現実を考えると時間に使うなら、これからどんな手を打つべきかを考えた方がいい。私たちは、

与えられる試合に向けて動くことがすべて。コーチの仕事は、プランが崩れたら崩れた以上のプランを立てること。1年という時間をもらって新たな目標も設定できたら、あとはいかにビルドアップしていくか。

島田 僕が会った選手にも、「大きな声では言えないけどラッキー」と捉える人もいた。そんな視点の転換ができる選手は強い。

井村 先を見据えて、今の自分を超えていくための目標を持つ。それが成長の第一歩ですから。でもね、そういう選手には「1年の時間ができたんは世界中の選手みな一緒。あんただけちゃうからな」ともいますよ（笑）。

●コロナ禍で病院に起きたこと

井村 病院こそ大変だったのでは？

島田 医者として一番胸が痛んだのは、やはり「面会の制限」。老健にいらっしゃるおじいちゃんおばあちゃん家族に会えずに孤独になる。一方の家族は不安で仕方ない。手術を終えた子どもに付き添ってあげることができない。人のつながりが断たれ、「頑張れ」とか「成功してよかったね」という心の通う言葉がなくなってしまう。現場のスタッフが一番苦労したのは、ここ。

井村 けがや病氣した時ほど、周りの支えが欲しいですからね。

島田 通常なら病棟の大部屋では電話できない。でも今回は特別。スマホなどで顔を見ながら話せるよう、看護師さんが手伝って環境も整えた。感染から守ることが最優先だから、面会の制限は仕方ない。一方で心の支えも大切。相容れない課題が浮き彫りになったと思うね。

●互いの心をつなぐために

井村 私はもう、いろんな関係者に「2021年の演技は、今年より断然レベルが高いよ」と言っちゃいました。選手にも、2021年のあなたちは、今年よりも数段強くなると伝えていきますし、彼女たちならきつとそれができる。

島田 その言葉は、選手の心と技を強くするよなあ。それは患者さんと医師の関係にも通じるね。誰でも手術はひるむ。ましてや今回のように、医療材料の供給がおぼつかないといった情報が入ればなおさら。でもそれは、やはり雑音。決断するのは患者さん。条件や環境に惑わされず、よりよい自分の人生のために手術すると決めたなら、それを全力で支えるのが、僕らの仕事。

井村 多くの人が「もしも」で動揺し、苦しんでいる。もしも何か月もプールで練習できなかったら…なんて考えても意味ない。

島田 その「もしも」、僕も患者さんからよく聞く。「もしもさらに悪くなったらどうなるんですか」。そのときは「その対処法を考えるのは僕の仕事で、あなたの仕事ちゃう。可能な限りの選択肢は用意してあげる。自分の幸せをめぐれば考えて、何を選択するか決断するか。それがあなたの仕事。もしもにまづいて、足を止めたらかん」と。

井村 これまでの私は、ガンガンに引張るタイプのコーチだった。だからこそ今回あらためて気づいたことがあるんですよ。このEudynamicsヴィゴラスのように、いろんな方々から練習場所を提供していただくといった経験をして選手たちも「知らず知らずに支えられていた自分」に気づき、今の自分ができることを見つけ、次第に明るくなっていった。実は、その選手たちの明るさに私自身が元気づけられた。寄り添うって、こういうことなんだな、と。

島田 「ケアリング」って言葉がある。ケアを受けた人がこり笑ってくれる。それを見ることで、ケアをした側がケアされる。「してあげている」でも「してもらっている」でもない。互いが互いを勇気づけ、喜びが循環する。心をつなぐには、一方通行じゃあかんのやと思うよ。

医療法人はあとふる 理事長
島田 永和
Nagakazu Shimada

医療法人はあとふる × アーティスティックスイミング
理事長 島田 永和 × 日本代表チームヘッドコーチ 井村 雅代氏

そばにいて、顔をみて話す。 互いに勇気づければ、 喜びは循環する。

今回のコロナ禍は、さまざまな人に「不安と孤独」をもたらした。まさかの五輪延期に直面したコーチとオリンピックたちは、それをどう乗り越えたのか？ 一方、「面会の制限」という環境の中、病院・施設スタッフは、患者さんや利用者さんにどう対処したのか？ 古くからの親交を重ねる二人に、それぞれの現場で見つけた「心のつなぎ方」を語ってもらった。

はあとふるグループでは、アーティスティックスイミング日本代表メンバーに対して、少人数で環境面に配慮し継続的なサポートを行っています。

アーティスティックスイミング
日本代表チームヘッドコーチ
一般社団法人
井村アーティスティックスイミング
代表理事

井村 雅代
Masayo Imura

Profile ●シンクロナイズドスイミング（現／アーティスティックスイミング（以下AS））の選手を経て、1978年から日本代表コーチに。ASがオリンピック種目になってから9大会連続メダル獲得。北京五輪から中国代表コーチを努め、中国シンクロ初のメダル獲得。ロンドン五輪では中国初のデュエットでのメダル獲得。2014年日本代表チームのコーチに復帰。リオ五輪ではデュエットが2大会ぶり、チームでは3大会ぶりのメダルを獲得。

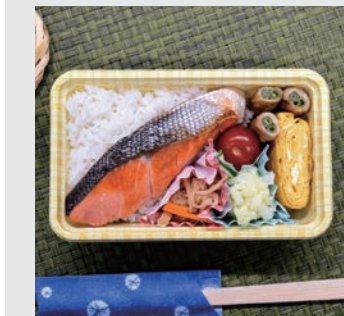


●不安と戸惑いからの脱出
乾 4月にハンガリーとロシアで行われるはずだったワールドシリーズ中止を聞いたときは、正直戸惑いました。シーズン初の試合は、前シーズンとは違う演技の発表の場。新たな評価を受ける機会がなくなりますから。
吉田 さらにわずか2週間後にはオリンピックまで延期に…。
栄徳 みんな日に日にちっくなつていくみたいだった。3月末に予定されていた五輪会場・アクアティックセンターのこけら落としのエキシビションが中止に。次がワールドシリーズ中止、とどめがオリンピック延期。
乾 オリンピック開催があやしくなった頃が一番つらかった。私は29歳、体力に不安もある。ひとりだとモヤモヤする。井村先生に胸のうちの言葉をもらっても大丈夫！との言葉をもらっ

て、やっと切り替えられた。
吉田 私は、気づいたら「切り替えさせられた」。新しいトレーニングメニューが続々と組まれたので…。
●ひとりで立ち止まらずに
乾 たしかに。ワールドシリーズ中止後すぐに、「時間ができたぶん何を修正すべきか」を語り合うミーティングがあった。私が気になっていたのは、チームのフォーメーションが崩れること。再度分解して、細かく練習し直したかった。するとすぐにそのトレーニングが変わった。
吉田 私は、去年の世界水泳で感じた世界との差、技の高さや水面から出る足の高さなどが課題でした。まだ一歩届いてない。それに対して次はコレ、終わればコレとつないでもらった。チームを離れていたら、きつと止まってしまったと思います。
栄徳 そう、止まらないことが一番！見事にその作戦にハマっていたんだ、ありがとうございます（笑）。でもね。井村コーチと立てた方針は、「一人の時間を少なくしてあげよう」ということだけ。全員ミーティングも、一人だけで考えさせないため。コーチがテーマを考え、僕はみんなから出た課題をクリアするメニューを絶やさずにつくる。

実はさらにその裏でコーチは、練習場所や合宿所を確保するために、全国のいろんな方にお願いの電話をかけまくっていた。
乾 多くの方に心配りしていただいたんですね。そうしてこのEudynamicsヴィゴラスも借りて、合宿を始めたのが4月初旬。寮まで用意してもらった。
吉田 その寮の料理はみんなで作っています。料理長はいつの間にか私。得意なんです、たぶん番上手！（笑）。今度、感謝のしるしに、島田理事長にみんなで作ったお弁当を渡す予定です。
●互いの心をつなぐために
吉田 私は、まずは栄徳師匠（笑）の指示に忠実に体をつくり、技を身につければ、必ずいい方向に進むと信じています。でも、全部「はい」と肯定するだけでも違うかな。こんなトレーニングはどうですかと提案したり、納得いかないことは納得いくまで理由を聞いたり。「守破離」ですね。
栄徳 僕は、自分がみんなにどんな貢献ができているかは、自分ではわからないなあ…。
吉田 兄貴的存在？かな。トレーニング用のロープが絡まったら、まずは「栄徳先生ーッ」って、助けてもらおうとか？（笑）。
乾 でも、トレーニングは厳しい。押しが強いとか、絶対に曲げませんよね？

吉田 あのお、チーム全員で「絶対仲良くなれない」と一致してメニューがあるんですけど…。20kgの重りを持ち上げるやつ。
栄徳 狙いは説明したし、納得もしたはず。でも嫌なんやな？
吉田 来年になったらこのメニューとも仲良くなれるかも…。今はまだダメ（笑）。
乾 しんどい日もあるけれど、トレーニングの雰囲気はよくなっていますよ。今までは、がむしゃらなだけだった。今は頭も使って目的を理解しながら、かな。
●1年後の舞台を信じて
乾 私自身は三大大会目になります。日の丸を背負って泳ぐ、やはりオリンピックは特別な場。しかも自国開催。東京じゃなかったらここまで続けていなかった。この奇跡の場に、今自分ができるすべてを注ぎ込みたい。
吉田 私は初めて。これまでそこをめぐして頑張ってきました。だから1%でも可能性がある限り、そこに向かって進むのみ。
乾 演技の難易度を上げたり、濃くしたり、精度を上げたり。2021年の演技は、2020年より数段進化させなきゃね。
栄徳 最後に！身の回りや靴の中も少し整頓したら？女性らしさも大事な競技だからね（笑）。



島田永和

手作りのお弁当を食べ終えて…
 皆さん、お弁当をありがとう。とってもおいしかったです。そして、君たちの愛情をいっぱい感じましたよ。
 それはね、切り干し大根の噛み応えにも、ポテサラの芋の甘みにも、鮭の焼き具合にも、肉巻きのしつかり巻かれた様子にも、幾重にも重ねられた卵焼きのおいしさにも、プチトマトのヘタを取った跡にも、そして、波打ち際のように広がるご飯にも、すべてに心を感じて、いただきました。
 私はASに関して全くの素人ですが、それって、ふと思っただけで、水面上に出る足先や手先のこともありませんね。
 つい、説教っぽくなってしまっただけは許してください。
 心が細部に表れるという意味では、同じではないかと思うのです。
 こまやかな心遣いは、きつと、相手にこんなふうに通じるのですよ。どうか、皆さんの演技に、この切り干し大根、いかしてくださいます。
 食べるものが全部なくなったお弁当箱、ピンクとブルーの小分けの仕切りが寄り添いながら、誰もいなくなったと寂しそうにしているように見えました。
 もう一度、ありがとう。みんなも頑張ってください。

医療法人はあとふる TASH トレーナー
 アーティスティックスイミング 日本代表チーム
 フィジカルコーチ 栄徳 篤志

ひとりにならず、立ち止まらず。目標が見えれば、ピンチはチャンスに。

アスリートの夢がかなうはずだった 2020 東京オリンピックは、コロナ禍によって眼前からすりりと消えた。その時オリンピックたちは、どうやって心を強く保ったのか？そして、伴走し続けたトレーナーは、どう寄り添ったのか？「互いの心のつなぎ方」を語ってもらった。

医療法人はあとふるTASHトレーナー
 アーティスティックスイミング
 日本代表チーム フィジカルコーチ

栄徳 篤志
 Atsushi Eitoku

Profile ●2016年11月からAS日本代表チームのトレーニングに帯同。2009年4月～2016年10月 阪南大学トランポリン部トレーナー 2014年～現在 日本オリンピック協会強化スタッフ（体操協会:医科学サポート） 2016年～現在 日本オリンピック協会強化スタッフ（水泳連盟:医科学サポート）

TASH (Top Athlete Support team Heartful) とは？

はあとふるグループの院外活動。医師、トレーナー、療法士、管理栄養士などの多職種から構成されたチームで、アスリートのフィジカルサポートを行う。AS日本代表チームヘッドコーチ・井村雅代氏が主宰するアーティスティックスイミングクラブをはじめ、FC大阪（日本フットボールリーグ）、SNOW JAPAN モーグル日本代表チームなどのアスリートたちをサポート。トップアスリートのケアで培われた最前線ノウハウが、一般の患者さんの運動器ケアへとフィードバックされている。



アーティスティックスイミング 日本代表

乾 友紀子 Yukiko Inui

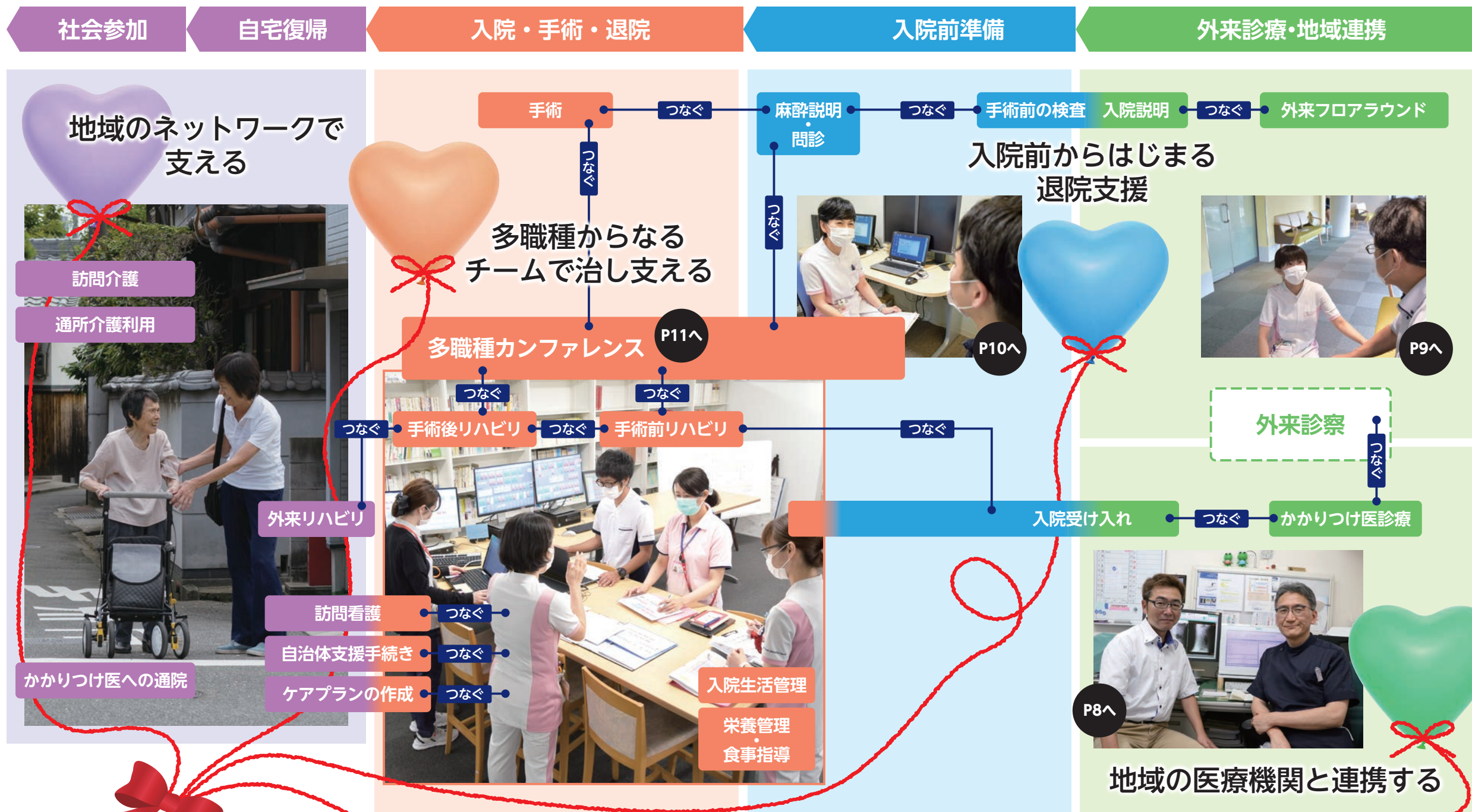
Profile ●リオ五輪では2つの銅メダルを獲得（デュエット／チーム）。2009年日本代表入り以降、エースとして日本チームをけん引。長い足を生かしたしなやかな演技が持ち味。

アーティスティックスイミング 日本代表

吉田 萌 Megumu Yoshida

Profile ●2017年日本代表に入り、2018年には井村雅代ヘッドコーチによって乾友紀子選手とのデュエットのメンバーに抜擢。テンポの速い楽曲にも対応できるリズム感の良さが持ち味。

その人らしさを支援するために、「治療とケア」を切れ目なくつなぎ、むすぶ



「退院支援」と聞けば、「入院してから退院までの間の支援」を想像する方も多いだろう。しかし、運動器ケアしただけ病院の「退院支援」はそうではない。今あらためて問われている医療・介護現場での「つなぐ」心。この特集では、「つなぐ、むすぶ」心を大切にしたい。しただけの退院支援、を2号連続で紹介する。

入院前から社会復帰まで切れ目なく
点を線に、線を面へとつなぎ、むすぶ

結ぶチーム

従来の「つなぐ」だけにとどまらず、一つひとつのチーム、役割をむすぶことで患者さんのその人らしさをサポートする

次回の特集で紹介

員などの医療スタッフによって退院後の生活を検討するカンファレンスが開催されており、それぞれの視点をもってそれぞれの役割を果たしながら、次につなぐ。退院前には、実際にサービスを提供する地域のケアマネジャーや訪問看護、通所介護などのスタッフと退院前にカンファレンスを行うこともある。そうして一つひとつの支援を、いねいに積み重ねていくことで、患者さん、ご利用者の日々の暮らしを家族や地域社会とむすんでいく。

この特集では、しまだ流の退院支援を2号にわたって紹介する。今号は、入院前から入院中まで、次号では退院前から社会復帰まで取材した。

ケアをしても高齢になっても、「動く」を諦めずに「動いて治す」。患者さんご利用者の「動く未来」を信じて寄り添うスタッフたちの姿を見て欲しい。

治療(Cure)とケア(Care)を、切れ目なくつなぎ、むすぶ。

整形外科に入院する場合には、手術を伴うことが少なくない。入院するだけでも心は重い。退院はいつになるのか？先が見通せない。そのうえ手術するとなれば、はたして元の生活が送れるまでになるのか？心配と不安は募る一方だ。

運動器ケアしまだ病院の「退院支援」は、入院前から始まっており、入院してからは、手術やリハビリを行う治療(Cure)、退院して社会復帰するまでのケア(Care)を指している。当院には遠方からも多く患者さんが来院しており、希望される退院後の生活も、多種多様である。はあとふるグループには、疾病予防施設ヴィゴラスや訪問看護ステーションハートパークはびきの、通所リハビリテーション、通所介護悠々亭など、さまざまな在宅生活を支えるサービスが整っているが、すべての患者さんを支援するためには、地域との連携は欠かせない。そのため、運動器ケアしまだ病院がめざす退院支援の最大の特長は、「切れ目なく、つなぐ、むすぶ」ことにある。入院中は、医師、看護師、療法士、薬剤師、栄養士、訪問看護師、医療相談

外来診療

不安に気づく・先回りする

外来フロアラウンド

多くの患者さんが交差する運動器ケアしまだ病院の受付フロア。その中で、あちこち目配せしながら歩き回る看護師がいる。あたかも「探しものをする新人看護師」のようだが、そうではない。これは「外来フロアラウンド」と呼ばれる業務だ。担当するのは、看護師の種谷だ。種谷は、初めて外来受診する患者さんの「不安を感知するセンサー眼」を持つ。

「初めての方の顔には『?』マークが浮かんでいます。初めてなら、受付場所すらわからない。体の痛みや不調があつて来院されているのですから、不安もいっぱい。手術は必要?入院は何日?動けるように治る?『?』だらけです。『?』を察知すると、『どう

かしまたか』と声を掛ける。「何もなければそれが一番。でも結構な確率で当たります。足がビリビリ痛むとか、手術は嫌やなあとか。何か一つでも聞きだせれば、症状を詳しく聞いたり、言葉にしにくい不安を整理したりと、ここが腕の見せ所。その情報はすぐさま担当医や看護師に伝える。この流れが診察時間。待ち時間を短縮し、的確な診察と支援の手配準備へとつながっていく。「自分はきつとよくなる。そんな安心感を感じられる外来フロアにしたいんです」。

本誌の表紙にあるキャッチフレーズ「ここに笑顔の種がふる」のように。外来フロアで蒔かれる「種谷の種」が、安心という花を咲かせていく。



〈つなぎ、むすぶ人〉
外来看護師
看護部 種谷 育子

地域連携



●医療法人 和誠会 調子医院
〈受付〉9:00-12:30 16:00-19:00
〈休診日〉水（午後）・土（午後）・日・祝
〈住所〉大阪府羽曳野市恵我之荘 2-5-17
〈電話〉072-952-3150
〈ホームページ〉<http://www.choshi.or.jp/>

情報が多いほど、充実した支援をより早くから準備できます」。

調子医師は、そうした「目に見える連携」だけでなく、かかりつけ医の立場ならではの視点からしまだ病院の「意外な魅力」も語ってくれた。

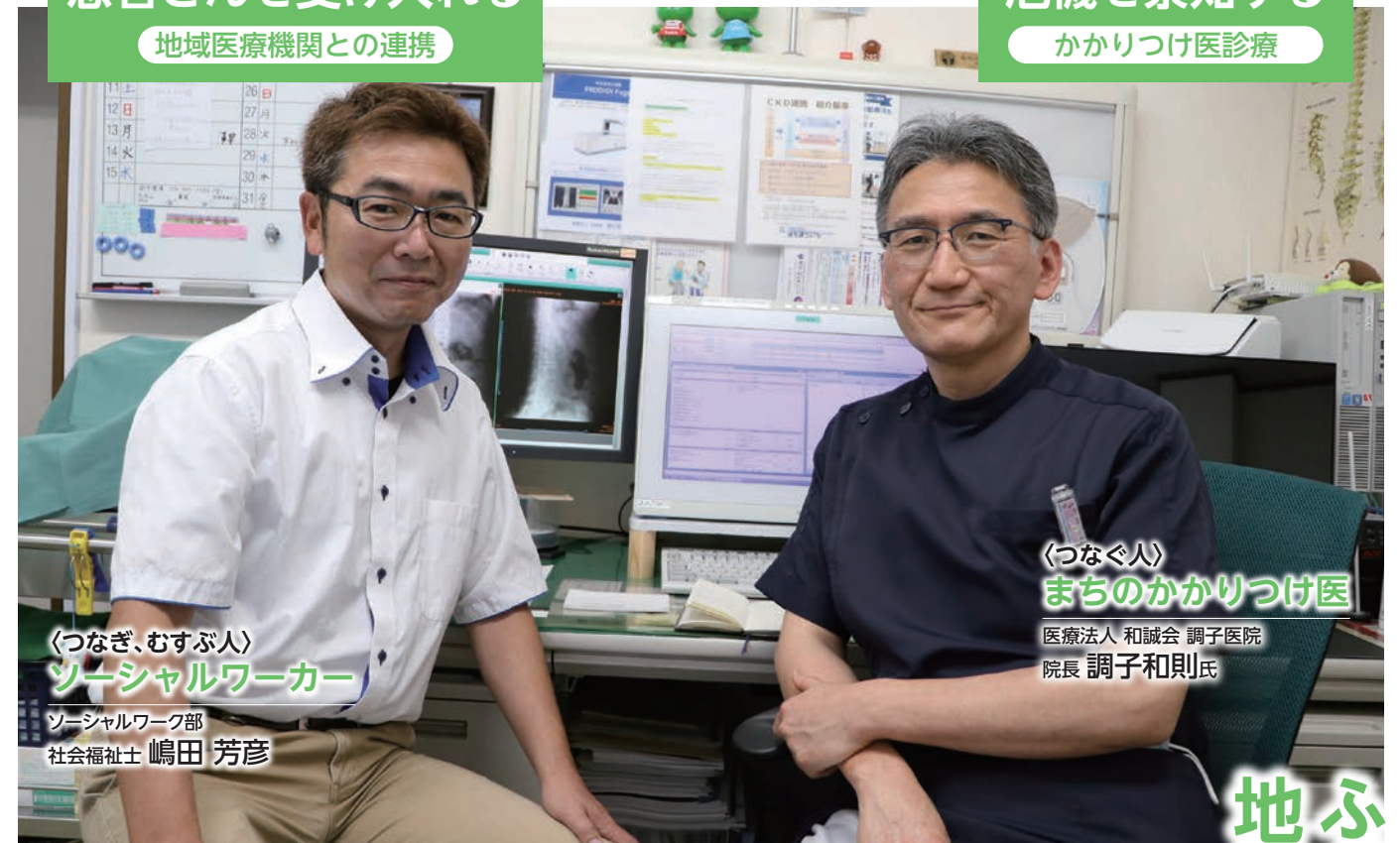
「運動によるリハビリテーションが終了した方や、生活習慣病または軽度の整形外科疾患で運動が重要な方にしまだ病院に併設されている

ヴィグラスを勧めることがあります。私も診察時に運動指導を行います。なかなか動機づけができない例も多く、そのような方に状態に合わせたトレーニングメニューで指導していただけるので、患者さんへの運動に対する動機づけに役立っています」。

しまだ病院の多様性のある機能が、一味違った、かかりつけ医との連携に役立っているようである。

患者さんを受け入れる

地域医療機関との連携



〈つなぎ、むすぶ人〉
ソーシャルワーカー
ソーシャルワーク部
社会福祉士 嶋田 芳彦

危機を察知する

かかりつけ医診療

〈つなぐ人〉
まちのかかりつけ医
医療法人 和誠会 調子医院
院長 調子 和則氏

運動器ケアしまだ病院では地区のかかりつけ医と連携した医療に取り組んでいる。羽曳野市医師会長も務める調子 和則医師が開く調子医院もその一つである。

調子医師は、「しまだ病院にはさまざまな整形外科疾患を紹介しますが、MRIの検査を依頼することも多いです。でもそれは検査とその画像所見を単に依頼するだけでなく、所見をつけていただいた先生の専門医としての治療に対する意見も記載していただけるようお願いしています」。

手術を優先するか、保存治療をまず行うか等、治療方針を判断するうえで非常に役立っています。当然、画像診断だけで治療方針を決めることはできませんので、紹介状にはできるだけ私が診察した所見を詳細に記載するように心がけていますが、しまだ病院の先生は、いろいろな場合を想定して所見を書いていただいているので、患者さんへの治療方針への説明がスムーズにでき、助かっています」。

こうしたやりとりを経て、その人に最適な治療方針が決まっていく。かかりつけ医はもう一つ大きな役割を担っている。

「近年、この地域でも一人暮らしの高齢者が非常に増えています。私の所に通院される方の中にもおられます。万が一の時に連絡ができるように家族構成や、キーパーソンの連絡先は確認しています。しかし、最近では遠方の方も多く、病状説明等でも来院依頼をしてもなかなか来ていただけないこともあり、今後問題が生じる事を危惧しています。また、居室の様子やトイレへの導線等、患者さんの運動能力にあった生活ができているのか、自宅の様子が窺えるようにききとりもしています」。

いざ、しまだ病院で手術するとなれば、そうした情報までもが引き継がれる。そのバトンを受けるのがソーシャルワーカーだ。ソーシャルワーカーの嶋田が言う。「入院前に患者さんの情報があれば、入・退院後にどんなサポートが必要なるかが予測できます。段差の有無や程度、台所やお風呂、トイレの場所や状態によってはリハビリのメニューが変わる。自宅復帰後に手すり設置やリフォームが必要なら、介護保険の住宅改修の手続きをすることも選択肢の一つですし、デイサービスや訪問介護を考えるなら、介護事業者さんの手配も必要です。ケアマネジャーさんとの連絡や相談も始めます」。

ふだんの診療で得た情報をつなぐ
地域と連携して「面」で支える

入院・手術・退院



〈つなぎ、むすぶ人〉
理学療法士
リハビリテーション部
西谷 知也



〈つなぎ、むすぶ人〉
病棟看護師
看護部
村口 あや



〈つなぎ、むすぶ人〉
ソーシャルワーカー
ソーシャルワーク部
社会福祉士
上西 未夏



〈つなぎ、むすぶ人〉
訪問看護師
訪問看護ステーション
ハートパークはびきの
山本 弥生



体調管理と退院計画 自宅復帰のリハビリ 自宅復帰後の療養管理 多職種カンファレンス

異なる眼が集まる退院支援の要 その人らしい「次の一手」を考える

毎朝10時。病院の一角に、さまざまな制服のスタッフが集まってくる。「多職種カンファレンス」と呼ばれる定例ミーティングだ。この場には、外来看護師や病棟看護師、リハビリを担当する療法士、訪問看護師、ソーシャルワーカーなどの専門職が集う。そこで話されるのは、新規の入院患者さんをはじめとした「今日の情報」だ。実は、このミーティングこそが、「切れ目ない退院支援」を実現するための「要」となっている。

この場には、多岐にわたった情報が交差する。症状状態に関する情報はもちろんだが、ふだん介護している家族の情報、寝室やトイレなどの家の間取り、退院後の訪問看護の必要性の有無など、「見」「手術」や「治療」とは関係が薄いと感じられる情報も少なくない。

また、さまざまな情報が報告共有されているが、同じ情報も、職種が変われば「とらえ方・見え方」がかわる。病棟看護師・村口は「入院生活で困ることはないか？そこに集中して聞く」と言い、回復退院に向けてペースメーカーの役割を担う療法士・西谷は、「疾患別に定まっている入院日数と患者さんのケースごとで差はない

か？をチェックしながら情報収集する」という。

そして、この場のメンバーが見据えるのは、退院までだけではない。上西はソーシャルワーカーの視点から言う。「退院後にどんなサービスや支援を提供すれば、その人らしく生活できるのか？をシミュレーションしています。それによつては手配すべき支援メニューが変わる」。退院後の訪問看護を管理する山本が言葉を継いだ。「そもそも自宅生活にどんな課題があつて入院されたのか？日常生活動作（ADL／Activities of Daily Living）をイメージすることが大切。訪問看護につながるつながらずに関わらず、患者さんの生活を、想像する力が必要なんです」。

その想像力を高めるためのツールのひとつが、「住宅評価表」だ。これは、患者さんや家族に在宅生活の不安や心配事を記入してもらい、さらには自宅写真も撮ってきてもらったうえで完成させる資料だ。それをもとに最適な治療看護リハビリ・支援体制を協議選択している。

異なる職種の視点からの「その人らしい次の一手」。それを見いだす場が、この多職種カンファレンスだ。

入院前準備

cure care
〈治療とケアをつなぎ、むすぶ〉切れ目のない退院支援体制



生活の詳細を知る 麻酔説明・問診

〈つなぎ、むすぶ人〉
麻酔科外来看護師



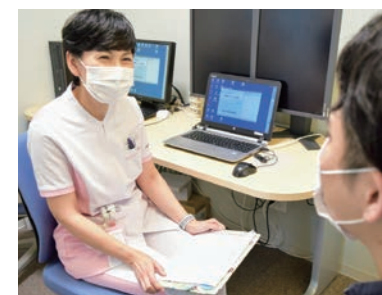
看護部
松村 理香



看護部
山崎 安由美



看護部
河戸 恵美



看護部 桑野 光

入院準備の説明だけにとどまらず、患者さんの生活への悩みや不安を親身に聴きだすように心がけている

手術が決まると、まず初めに行われるのが「入院説明」と「麻酔説明」だ。入院説明は、手術前後のリハビリや、食事、入浴予定などを説明する場。これは比較的イメージしやすい。

一方の「麻酔説明」とは何か？「麻酔説明」には、二つの目的がある。一つは、手術に不可欠な麻酔に関する説明だ。麻酔に耐えうる体かどうかは手術前の検査で診断し、その結果いかんでは麻酔方法が変わる。その一連の説明である。

そしてもう一つ、重要な役割がある。この説明の場を使った「患者さんの生活状況ききとり」だ。患者さんは、手術に対する恐れはもちろん、再び動けるか？自宅に帰った後の寝起きや食事、入浴やトイレなど、きちんと生活を維持できるのか？といった退院後の不安も多く抱えている。胸に秘めるそうした心配や不安を語ってもらいながら、同時に家族構成や家の間取りなども

聴きだしているのだ。手術直前に接する看護師に「話す」ことで、患者さんも安心した気持ちで手術を迎えることができる。

どうすれば、患者さんやそのご家族から上手に話を聴きだすことができるのか。その工夫を麻酔科外来看護師が教えてくれた。「ひとりの人として、その人の不安を減らしたい、少しでも役に立ちたいという想いと、これまで出会ってきた患者さんやご家族から学んだことを土台に、その人と一緒に考え、寄り添うことを大切にしています」。

整形外科疾患以外の既往歴があり、特別な配慮が必要だったとしても、その人にあつたケアを見据え、多職種カンファレンスの場で次にかかわるスタッフへ申し送る。この連のつながりがケアを動かすチカラとなっていく。

入院準備の説明をしながら、 「その人らしい暮らし」を聴きだす

岡田玲一郎先生とサンドラ・ジョンソンさんを偲んで



私たちははあとふるグループにとって、恩人である岡田玲一郎先生とサンドラ・ジョンソンさんが相次いでお亡くなりになりました。

岡田先生は、私が、30歳代で組織運営や経営を系統だてて勉強することなしに理事長・院長となり、ただ目の前の仕事をこなすだけで、将来については何も考えられず、立ち尽くしていた時に、手を差し伸べてくれた方です。院長として何を考えているのか聞かれて、私は、運動器のケアや病気を治すのに、最終的に元の生活や活動まで面倒を見たいと思っっていることや、手術だけではなく、運動療法に力を注ぎたいなど自分のやりたいケアのことを話しました。すると、じっと目をのぞき込むようにしながら「それでいいよ」とおっしゃったのです。まるで、強く背中を押していただいた気持ちでした。と同時に、「その方針を簡単に曲げるなよ」という無言の指導の付いた後押しでもあったと思います。

1996(平成8)年、岡田先生が主催された北米視察研修に参加させていただいた時に、サンディさんに初めてお目にかかることができました。その包み込むような温かい人柄とケアの質にこだわる強い情熱に引き込まれて、個人的に指導を受けるだけではなく、私たちの組織に関わっていただけなのか、お願いしました。

その後、社会医療研究所の招きにより、便乗したり、私たちがご招待して、来日されるたびに、サンディさんの指導を受けました。はあとふるグループに、職務分掌やマネジメントの体制について、アメリカの論理的で合理的な仕組みを教えてくださいました。功労者です。ことに看護師としてのキャリアアップの中で管理の勉強をした人だけに、看護部への関わりは濃いものがありました。相手が看護師だと知った時には、必ず表情が崩れるのです。看護に誇りを持っていた人でもありました。

その彼女が作る豚肉のポットローストをご馳走になったことがあります。切り分けられたお肉に、私持参の醤油を垂らして食べているのを真似して、気に入ってくれたのが嬉しくて、強く記憶に残っています。

2016(平成28)年、はあとふるグループ

はあとふるグループ理事長 島田 永和
職員一同

安らかに、お休みください。

見ため鮮やかな赤とすがすがしい紫蘇の香りが食欲を増進

はあとふる 食堂

管理栄養士の旬のレシピ

子規が没する前年の1901(明治34)年9月10日の間、毎日の献立や病苦の恐怖などを綴った日記「仰臥遺稿(ぎようふいぎく)」にある「旬。子規は、この約1カ月間で14日も梅干しについて書いており、梅干しを薬しみにしていた様子が伺える。」

梅干すや庭にしたゝる紫蘇の汁

〔正岡子規〕

vol.5 赤紫蘇ジュース



介護老人保健施設 悠々亭
診療管理部 栄養管理課
管理栄養士
矢野 知子

暑い夏、私たちは体温が上昇すると発汗し体温を下げようと多量の汗をかき、水分に加えてナトリウムやミネラルなど体の調子を整える栄養素も出ていき、体内のバランスが崩れてしまいます。紫蘇にはβ-カロチン・ビタミンB群・ビタミンEまた鉄分・カルシウムなどのミネラルがたくさん含まれています。酢には疲労回復や食欲増進、腸内環境をよくする働きがあります。赤紫蘇のすがすがしい香りと酢のさっぱりした口当たりの良い飲料です。

暑い夏の水分補給に赤紫蘇ジュースを活用し、元気に乗り切りましょう。

材料 (1回量)

- 赤紫蘇……1袋(約300g) 旬6~8月頃
- 砂糖……400~800g 控えめにすると長期保存ができません
- 酢……2カップ 穀物酢・米酢・りんご酢など

作り方

- ①赤紫蘇は茎を取り除き、水洗いしザルに入れ水切りをする
- ②大きめの鍋に水2ℓを沸かし、沸騰すれば①の赤紫蘇を入れ、5分煮出す
- ③②の赤紫蘇を取り除く(違う鍋にザルを置き濾す)
- ④③を鍋で沸騰させ、砂糖を加え溶かす
- ⑤砂糖が溶ければ、酢を加えて濃縮液の出来上がり。酢を加えると綺麗な紫色に変わります

楽しみ方

赤紫蘇ジュースを水や炭酸水で割る濃度はお好みです(加える砂糖の量で異なります)牛乳や焼酎も美味しいらしい

【特集】

つなぐ。みすえる。

【互いの心をつなぐ】折れない心のつくり方

- | | | | | |
|----|-------|-----------------------------------|---|---|
| 02 | 巻頭対談① | 医療法人はあとふる理事長 島田 永和 | ✕ | アーティスティックスイミング日本代表チームヘッドコーチ 井村 雅代氏 |
| 04 | 巻頭対談② | アーティスティックスイミング日本代表 乾 友紀子選手&吉田 萌選手 | ✕ | 医療法人はあとふる TASH トレーナー アーティスティックスイミング日本代表チーム フィジカルコーチ 栄徳 篤志 |

【治療(Cure)とケア(Care)をつなぎ、むすぶ】切れ目のない退院支援体制

- | | |
|----|---|
| 06 | 退院支援体制[全体の流れ] |
| 08 | 危機を察知する[かかりつけ医診療] |
| 09 | 不安に気づく・先回りする[外来フロアラウンド] |
| 10 | 生活の詳細を知る[麻酔説明・問診] |
| 11 | 体調管理と退院計画・自宅復帰のハビリ・自宅復帰後の療養管理[多職種カンファレンス] |

【連載】

私のはあとふる
大相撲力士 勢 関

はあとふるの食堂
-管理栄養士の旬のレシピ-
赤紫蘇ジュース

●岡田玲一郎先生と
サンドラ・ジョンソンさんを
偲んで
はあとふるグループ 理事長 島田 永和



はあとふる
Vol.60 ♡ 2020年7月

●年4回発行
●発行・編集
[広報戦略室]
〒583-0875
大阪府羽曳野市榎山100-1
☎072-953-1001(代)
●制作協力
株式会社エディウス

【今号の記事】

森重文子さん

吉村ありさん

はあとふるグループのスタッフが『瑞宝単光章』を受章しました

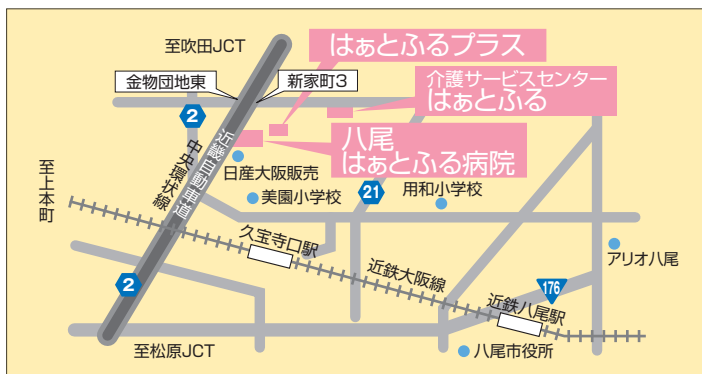
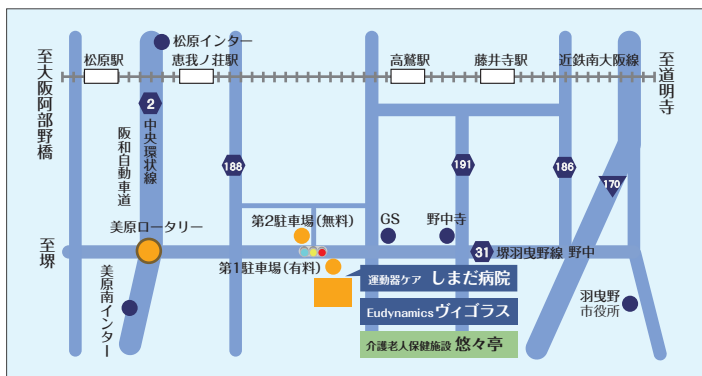
令和2(2020)年春の褒章で、スタッフの吉村ありさんが、公務等に長年にわたり従事し成績を挙げた方として、「瑞宝単光章」を受章しました。平成29(2017)年には森重文子さんも受章しています。

はあとふるグループでは多様な働き方を推進しており、次号では、お2人のキャリアを活かした働き方について、特集します。

その人がその人らしく自分の人生を全うすることを
Warm Heart ー心ー Cool Head ー知識・判断ー Beautiful Hands ー技術ー で支援します



<http://www.heartful-health.or.jp/> はあとふるグループ



はあとふるグループ

医療法人はあとふる

- ☐運動器ケア しまだ病院 Tel.072-953-1001 / Fax.072-953-1552
- ☐Eudynamics ヴィゴラス Tel.072-953-1007 / Fax.072-953-1007
- ☐介護老人保健施設 悠々亭 Tel.072-953-1002 / Fax.072-953-1911
- ☐通所リハビリテーション Tel.072-953-0045 / Fax.072-953-1911
- ☐通所介護 悠々亭 Tel.072-979-7807 / Fax.072-953-1911
- ☐在宅介護支援センター 悠々亭 Tel.072-953-1003 / Fax.072-953-1332
- ☐介護サービスセンター ゆうゆう亭 Tel.072-953-5514 / Fax.072-953-1332
- ☐訪問看護ステーション ハートパークはびきの Tel.072-953-1004 / Fax.072-953-0022

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

- ☐ヘルパーステーション 悠々亭 Tel.072-953-1062 / Fax.072-953-0022

〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

- ☐八尾はあとふる病院 Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180
- ☐通所リハビリテーション Tel.072-999-0726 / Fax.072-923-0186
- ☐訪問リハビリテーション Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180

〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1

- ☐介護サービスセンター はあとふる Tel.072-999-8126 / Fax.072-999-6118

〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

- ☐通所介護 はあとふるプラス Tel.072-920-7216 / Fax.072-920-7256

〒581-0815 大阪府八尾市宮町6-6-16

社会福祉法人はあとふる

- ☐通所介護 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128
- ☐サービス付高齢者向け住宅 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10